

八月六日

今日も暑くなりそうだ。ホテルのレストランで朝食を一人で食べる。広い店内のカウンターに俺一人。

皮ジャンは今日もやめだ。トレーナーにアーミーベストで走ることにする。きのう、定山溪のほうへ向かって少し走った道を、再び走ることになる。交通マナーの悪い札幌ともこれでお別れだ。

定山溪への道は、箱根のある部分にちよつと似ていなくもない。ただし、舗装の状態は桁違いに悪い。これも冬季のスパイクタイヤのせいだろう。

定山溪温泉の前でサイクル・ツーリスト達が道端に休んでいた。中山峠を通る。相変わらず、山の中のワインディングだ。ここらで何回か、待望のピースサインを交わす。途中、熊牧場などというのもあったが、そのまま通り過ぎる。

羊蹄山が見え始めると、坂は下りになった。この変も何か、箱根と富士山の風景に似ている。なんだか箱根すらも懐かしくなる。家へ帰ったら、箱根を走りに行こう、そう思った。芦ノ湖スカイライン、箱根ターンパイク、彫刻の森、大湧谷・こんな北海道にいると、そんなものさえ懐かしい。

羊蹄山がずつと見え隠れしながらワインディングロードを走り抜けると平地に戻った。畑の中を道が真っ直ぐに伸びている。畑の肥料の臭いがものすごい。そんな臭いの中にバイクを止めて写真を撮った。

また走り出す。羊蹄山の全容が次第に大きくなる。ルスツ高原とかいう所を通り抜けて、しばらくすると少しずつ洞爺湖に近づいているらしいことが、標識でわかってくる。羊蹄山は少しずつ小さくなる。

そして不意に湖が左下方に出現した。本の写真などで見覚えのある島が中央に見える。

ドライブインの駐車場が、ちよつど湖を見下ろす形になっていて「洞爺湖」と書かれた看板まで立っている。写真を撮るには絶好だ。ちよつどCB250RSのライダーがその看板の前で記念撮影をしている。黒皮のツーリングスーツにジェットヘルをかぶり、眼

鏡をかけている。どちらかと言うと大人しそうなタイプの男で、バイクよりもオフィスのほうが似合いそうだった。少し離れて待っていた俺の傍を通り抜けるとき、挨拶をしてくれた。俺が写真を撮っている、今度はAR50でまだ少年とも言えるライダーがやって来た。その少年には、こちらから挨拶をした。いいもんだ。

そのまま道なりに走って行くと、湖畔の道路になる。温泉街はなかなか賑やかだった。左に湖、右に有珠山。空は快晴。湖水は真つ青で、島と湖岸の緑は美しい。ツーリングの最終日に、やっと北海道の観光地を訪れた、という気になる。

西湖畔という所で写真を撮った。そこを出て走り始めると、前方遠くに赤茶色の異様な山が出現した。昭和新山だとすぐに判った。こんな山は今まで一度も見ることが無い。

そのまま走ると昭和新山に通じる道があったので、迷わず右折する。木立の中を抜けると、突然道路の左側に山の全容が出現した。全く息を呑むような光景だ。なにか他の世界に来たような気さえした。

駐車場があつて、土産物屋とかレストランでかなりの賑わいだった。左後方には有珠山がまだ間近だ。ともかく昭和新山は見応えがあつた。

伊達市へ向かう国道は、なんの変哲もない道路。交通量もほとんど無い。国道とぶつかって左折。そしてすぐそば屋に入った。客は俺ともう一人、田舎のおばさんだけだった。この店に、誰かバイク好きがいるらしく、「ロードライダー」と「モーターサイクリスト」が店の隅に置いてあつた。

伊達市から室蘭へ。さすがこの辺になると、交通量が多い。室蘭のそばまで来ると、空気の中に油の臭いがした。そのまま海岸沿いの道を通って、登別から苦小牧を目指す。もう、トラックやダンプは多いわ、舗装はガタガタだわ、でとても今までの道とは違う。ともかく、室蘭から苦小牧まで走ったこの道に関しては、あまりいい印象は持てなかった。

川を渡ったら、急に空気が冷たくなった。トレーナーでは寒くなった。しかし我慢できないほどではないので、そのまま走り続ける。

小さな街ばかりが続く同じような景色。太平洋が右側に見えたりする。久しぶりに見る太平洋だった。そして遂に苦小牧へ。不安と期待を抱いて、この街を出発したのは何日前だったのか。ロングツーリングをしていると、日付や曜日の感覚など全く無くなってしまう。

サンルートホテルがなかなか見つからない。とうとう港のそばまで行ってしまふ。しかしおかげで明日の朝、港へ行くのに迷うことが無くなった。ついでにガスを補給しておく。

駅前まで行ってあちこち走り回るが、ホテルが無い。ここまで来ていれば、いつかはわかると思ったものの、なかなか見つからないといいかげんイライラする。とうとうカメラ屋に入って聞いてみた。なんのこたあない。さつき通り過ぎた国道沿いにあったのだ。ともかく見つかってほっとした。疲れていた。これで北海道ランは、ほとんど全て終ったのだ。

苦小牧の街なんか見るつもりは無かったので、ホテルのレストラ  
ンで和定食をとり、あとは部屋でテレビを見ていた。そこで簡単な  
メモを書いた。

再び苦小牧へ帰って来た。初めて苦小牧港へ降り立った朝は、い  
つたい何日前のことだったのか。  
今にも雨が降りそうな空、冬のように冷たい空気……。その中を  
GSX250Tは走り出した。  
それから五日間、北海道を走り回った。  
感動的だった。嬉しかった。そして不安だった。加えて涙が出る  
ようなピース・サインの連続。  
日本海からの風が吹き荒れたサロベツ原野をはじめとして、いろ  
いろな風景が胸にやきついていてる。  
しかしともかくも北海道ランは、ほとんど全てが終わった。しかも、  
今のところノン・トラブルで、だ。  
明日の朝、苦小牧港で東京行きフェリーに乗る。そこまでバイ  
クを運んで行けば、今年の夏、俺のバイクが北海道を走ることは、  
完璧に終る。

今この時点での正直な心境を言えばこうだ。

素晴らしい北海道ツーリングが終わってしまったことが、ものすごく寂しい。これからまた永い期間に亘って、俺をこれほどまで感動させる時間の連続は、もうやって来ないだろう。また単調な時間の連続・・・。

が、その一方であるアパートの部屋が懐かしい。もういいだろう。北海道ツーリングはあまりにも素晴らしいかったが、もう帰るべきだ。また来年この地へ来るぞ。それまで・・・。

やはり明日この地を離れることが、寂しいし嬉しい。

ともかく！この北海道ツーリングは何年ぶりかの感動を俺に与えてくれた。多少金がかかったが、来た価値は充分にあった。

さらばHOKKAIDO！

八月六日 一〇時五〇分 苫小牧サンルートホテルにて